

平成30年度第1回宇陀市総合教育会議 議事録

開催日時：平成30年8月2日（木） 午後3時～午後5時10分	
開催場所：宇陀市役所3階 庁議室	
構成員出席者	高見省次宇陀市長 福田裕光教育長 岡本憲明教育委員 巽礼子教育委員 吉川壽一教育委員 峯畑忠郎教育委員
説明者	中西教育委員会事務局長 藤原総務課長 岡橋教育総務課長 萩岡教育総務課主幹
協議事項	1 安心安全な教育環境の整備（登下校時の安全確保）について 2 時代に対応する資質・能力の育成について 3 学校等の適正配置と就学前・小・中・高の連携について
議事（発言内容等）	
市長	<p>皆様こんにちは。暑い中お集まり頂きましてありがとうございます。</p> <p>猛暑が続いておりますので、夏休みのクラブ活動中の熱中症など、皆様方には本当にご心配を頂いているかと思えます。また、地震によりブロック塀の点検をして頂き、台風等もあり、子どもを取り巻く環境が厳しいということで色々お世話をおかけしていると思えます。</p> <p>日頃から宇陀市の教育環境につきましてご尽力を頂いておりますこと心からお礼申し上げます。今日は、先ほど事務局から説明のありました3つの協議事項について忌憚のない意見を頂けたらありがたいと思えます。先般、学力調査を拝見しまして、中学校は全国平均に近いと思うのですが、小学校が一部を除いて少し低めかなということで、その辺も改善していける様に考えていきたいと思えます。</p> <p>また、この教育制度が平成27年4月に施行されたということで、私も初めてですが、私自身の考え方として教育環境というものは保護者にとって非常に重要な、住んで頂くための1つの大きな政策的な柱になっておりますので、やはり教育環境が良い、高い街に定住促進という意味からもしていきたいと思っております。</p> <p>そして、学校施設の統廃合も考えていかなければならないということで、あまり前向きなことではないので非常に難しい合意形成が必要ですが、新聞記事などを見ますと五條市のほうでは一貫教育を含めて議論されているようですので、宇陀市もある程度人口が減っていくことが見込めますので、全体を考えながら大きな枠組みでこの再編を考えていかなければいけないと思えます。</p> <p>県立高校の再編もございまして、状況が大きく変わっておりますので本当に忌憚のないご意見を伺いながら、適切な判断をしまいたいと思えますのでどうぞよろしくお願い致します。</p> <p>それでは、まず協議事項の1つ目、安心安全な教育環境の整備ということで登下校時の安全確保について進めたいと思えます。事務局の方から説明をお願いします。</p>
教育総務課長	<p>&lt;安心安全な教育環境の整備（登下校時の安全確保）について説明&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・登下校中に起こった事件・事故を受けて国から通達</li> <li>・宇陀市における取組み             <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 地域等の取組み 見守り隊、ランドセルカバーの贈呈</li> <li>(2) 学校の取組み 安全教育、登下校指導及び通学路の点検</li> </ol> </li> </ul>

	(3) 市の取組み 青パト、スクールバスの添乗指導、宇陀市通学路交通安全プログラム
市長	ありがとうございます。それでは、この件に関しまして意見交換をしたいと思います。
岡本委員	この安心安全な登下校というのは非常に子ども達の日常生活にとって大事なことだと常々思っております。今回、学校訪問を春にしましたけど、その時に各学校にそれぞれ今1番危ない所はないか、少しでも危ない所はないか、それがあれば学校から教育委員会に連絡をしてくれと言っております。また、この前地震でブロック塀が倒れてきて児童が下敷きになった事件がありましたが、保護者とか近所の方は、ここは危ないよというところを先生方よりもよくご存じなので、保護者にもそういったことを聞いて頂いて、少しでも改善していくことで、万が一の事が起こっても防げるのではないかなと考えています。それも含めて、学校にはPTAを通じて意見を聞いてくれと言っておりますので、その辺もまた学校からあがってくると思います。私達が全然気がつかない所でも近所の人には実はこれは本当に危ないというところをまず聞いて、それを市でできることであれば、子ども達の命を失うという最悪の事態を防げるのではないかなと思います。
	それともう1点、歩いて通学する子どもの通学路ですけども、横断歩道が消えかかっているところがたくさんあります。それと横断歩道は今、見守り隊の方が旗を持って立って頂いていますが、車を運転している人にしたら、子ども達が通う横断歩道があるよという標識、目印が非常に少ないといった2点があります。この辺は、他の市町村に行くと子ども達の通うスクールゾーンの横断歩道を緑とかオレンジとかではっきり分かるように色分けして示したり、ここはスクールゾーンで、子ども達が通りますよという大きな看板を立ててあったりして、見守り隊の方にお世話をかける前にドライバーに気付かせる工夫をしているところもあります。そういったことも含めて、今後検討していただけたらなと思います。
市長	ありがとうございます。学校から情報があがってきている所とかございますか。要するに学校の通学路の途中の色々な危険箇所ということですか。
教育総務課長	宇陀市通学路交通安全プログラムというので、ちょうどPTAも含めて学校だけでは分からない箇所、危険箇所をあげてくださいというように教育委員会から依頼させて頂いております。それを全部受けて、今後会議して点検していくと、それ以外にも例えばこの前の台風でしたら、木が落ちて通学路が通りにくくなっているとか、夏に草木が通学路を塞ぐくらい生い茂っているという連絡があったりというようなことで、一部は市と局と相談させて頂き対応したり、急を要するものは教育総務課の職員で刈れるものだけ対応したというようなこともございます。
市長	このプログラムに基づく点検というのは、随時ということですか。
教育総務課長	年に1回、夏の終わりぐらいを目処に、各危険箇所の報告を頂いて、関係諸機関が集まって、協議して、実際に現場を見に行き、安全確認をしているところです。
教育委員会事務局	補足でございます。教育総務課長が答えましたように、時期的には夏休みの間にそれぞれの学校から全ての調査報告を頂きます。その中で9月以降に会議と点検を行い、点検後、今後の対策を検討しまして、土木事務所等も含めまして、全体で危険箇所の点検を行ってまいります。その後、対策会議を行いまして、例えば先程岡本委員がおっしゃられたように横断歩道が消えかかっているとか、危険箇所で30キロ未満というようなものは、警察にも要望し、土木事務所等で対応していただくというような形で会議を進めております。
市長	さっきおっしゃられたのは、点検の機会に通学路の近隣の方々の情報提供もあればとい

	<p>うようなことですので、その点も対応して頂ければと思います。それと横断歩道については確認して頂くということで、あとスクールゾーンというのが宇陀市にはないですので、車のゾーン30しかないので、多分、その表記の仕方が違うのかもしれないです。スクールゾーンでしたら学校という感じがします。以前、榛原の小学校でスクールゾーンができないかと警察等に要望されたことがありましたが、なかなかできなかったという経緯がございます。</p>
岡本委員	<p>それこそ桜井とか大福のほうへ行ったら、子ども達が通るところは、きっちり色分けして、通りますよというようにすぐ分るようなことをしております。横断歩道の色分けにより、人が通るからドライバーも気を付けなさい、減速しなさいよというのがその道に入ったら分かるようになっていきます。ちょっと他の例を見て勉強したいと思います。</p>
市長	<p>そうですね。桜井市でされていれば、宇陀市でもできないことはないと思います。</p>
異委員	<p>色々要望があっても、警察で一定の条件というものがあるのではないですか。</p>
教育長	<p>榛原の西峠から近鉄榛原駅前へ下ってきて、急カーブになって駅の北側へ向かうところもゾーン30にして色分けしていますけれども、あそこは通勤の車がたくさん来た場合にあまりに標識を立てすぎたら逆に危ない時間があったり、また、市立病院の信号があって魚屋さんのガードがあって、そこには信号設置の要望がありましたけれども、その手前に信号があるのでこの信号を設置すると3つになってしまい、これを連動させてしまうと交通停滞になってしまい、逆に良くなかったりで、要望はされているのですけれども設置できないケースがあって、警察のルールの中で、改善されるどころと、これはもうちょっと考えましようというようなどころがありますので、簡単にはできないところがあります。</p>
吉川委員	<p>宇陀市は4つの地区があって、登下校の環境整備が各地区で違ってくると思います。岡本委員が言われた大宇陀は自転車通学とかで特にそういう点検が必要です。室生地区はスクールバスが主となっておりますので、同じ箇所からみんな歩いていだけで、今言われたような環境整備はなかなか難しいと思います。先生方が毎朝来られて点検されております。</p>
	<p>ただ1つ、スクールバスで通学している地区につきましては、以前、スクールバスの運転手が気を失って溝へはまって怪我をしたと、なかなか事故報告が遅くてどうなのかと、そういう有事の時に連絡ができなかった事があります。その時、運転手さん1人で添乗員はいなかった。その辺で毎月20日に添乗していただくのはありがたいのですが、添乗しているから運転手さんがしんどくならないとかはないと思います。私が1つお願いしたいのは、特に運転手につきましては、通常も健康診断をやっておられると思いますが、脳梗塞に伴う事故が非常に多いので、せめて脳ドックの受診なりを必ず1年に1回は勧めて、異常ないかとかも診て頂くことも1つの環境整備、登下校の整備を図る方法ではないかなと私は思っています。そうすると、保護者も1年間この人は脳ドックで特に問題はありませんでしたと分かれば、安心感も持てるだろうと私は考えています。</p>
	<p>それと、去年か一昨年、スクールバスの運転手さんがスピードを出しすぎて、子どもがあ運転手さんだと怖いというようになったそうで、今はそんなこと聞きませんが、抜き打ちの添乗も考えて頂いて、運転手さんが交通ルールを守った安全な速度かという点検も必要であろうと私は考えております。ご検討願えたらと思います。</p>
教育総務課長	<p>今のスクールバスの健康チェックの件ですが、バス会社の方で定期的に健康診断を義務付けてやって頂いております。それと毎朝に健康チェックということで前日の飲酒の有無とか、睡眠時間とかをチェックして頂いています。ただ、それで脳梗塞が起こらないかという、絶対ではないですが、健康観察に関しては委託業者もかなり気を遣ってやって頂</p>

	<p>いているところであります。</p>
吉川委員	<p>死亡事故が起こったら本当に大変ですから。</p>
教育総務課長	<p>引き続き、健康管理をして頂きます。</p>
市長	<p>スピード違反という情報はありますか。</p>
吉川委員	<p>今はないですが、以前ある運転手さんは非常に飛ばすというのを聞きました。</p>
教育委員	<p>以前に市民からもそのような連絡がございました。そういう連絡があった場合について</p>
会事務局	<p>は、すぐその委託会社に連絡をして、本人にもバス会社から面談をして、報告を頂いてお</p>
長	<p>ります。最近では、そのような報告はございません。委託会社においても細部に亘りまして点検をして頂いて、乗る前につきましましては、自分に対しての点検を行い、スクールバスに乗って頂いている状況です。</p>
教育長	<p>4月には小学校1年生が初めてのスクールバスに乗るということで、乗降の仕方とか、車中の座り方とか、シルバー人材センターに協力をして頂いて、毎日、全ての地域で子ども達に教えて頂き、今年は1歩前進できたかなと思っています。また、4月だけではなく、もう少し期間を伸ばしていけるようにできたらいいかなと思っています。</p>
市長	<p>はい、ありがとうございます。他にはいかがでしょうか。</p>
巽委員	<p>入学式、卒業式等の行事にも行かせていただいたら、榛原小学校、榛原東小学校、榛原西小学校も含めて、3小学校とも地域の見守り隊の方がものすごく熱心で、本当に子どもの事をよく知っておられます。人数的にも、特に街中の方はたくさんいらっしゃって、中心になる方が上手にして頂いているなあとすごく感じました。ただ、スクールバスの場合、見守り隊の見守りも最後の一軒一軒までは行ってないので、例えば、スクールバスを降りて、そこからそれぞれが帰りますので、そこからは学校も保護者と連携を取って、特に危険個所のある所とか、家が点在していない所とかは、学校と保護者若しくは自治会に協力してもらいながらやっていかないと、1人になった時に1番危ない事件が起きているのを見たら、1年生の家庭訪問までにそれぞれの子どもがどの道を通って下校していくのかというあたりチェックしていただけたらなと思います。</p> <p>見守り隊の方たちも幼稚園からずっと見守って頂いている子はよく知って頂いていますが、保育所や、途中で転入してきた子ども達とか、同じ小学校に通学するけれども、初めて会う子ども達もいるので、そういう子についてはかなり気を遣って頂いているみたいで、学校がちょうど間に立って1人1人をお願いするという形を続けていかないといけないと思います。</p> <p>また、見守り隊も高齢化していますので、うまく世代交代していくというのが課題かなと思います。でも、本当に頭が下がるくらい良くして頂いています。榛原地域の小学校の事ですけれど、本当に上手にリーダーシップを取って頂いている方がおられて、子どもの事もものすごくよく知っておられて、ありがたいです。</p>
市長	<p>スクールバスを降りてから家までというのはなかなか難しいところもあります。</p>
岡本委員	<p>やはり自治会でそういう事を1回頼むのもいいかもしれません。まちづくり協議会もあることですし、お宅の地域の子どもの達をみんなで見守ってくださいというのを、見守り隊以外をお願いすることも良い事かもしれません。</p>
巽委員	<p>高学年は良いとしても低学年、やはり小さい子どもさんは、見守りが必要です。</p>
岡本委員	<p>できたら気を付けてあげてくださいという案内を学校から出しても良いかもしれません。</p>
教育長	<p>新潟の事件の時に宇陀警察署や各交番を回らせて頂いたことがあって、警察の方も子ども</p>

	<p>も達がバス停から1人になる所というのを心配しておられて、各学校にも連絡して、まずその把握をしてくださいということで行かせてもらいました。</p> <p>ただ、おっしゃるように自治会にも校長先生からお願いして、この子最近見ないなという時には連絡をお願いしますということをするようにしていますが、なかなか子どもの少ない地域は人も少ないので、常時確実に安心して見守っていくというのが難しく、全部が全部できないけど協力するという形になっているのは聞かせて頂いています。</p>
<p>巽委員 吉川委員</p>	<p>宇陀市全体で防犯カメラの設置というのは進んでいますか。</p> <p>多くて地域1台ぐらいです。私の村は出入口に全部設置してあります。昔、集団的に車上荒らしにあったので、自治会で設置しました。ただ、スクールバスの利用者は、ほとんどバス停に迎えにきたり、バス停まで送って行ったりしておられて、ほとんどの場合に保護者がおられます。</p> <p>ただ、榛原とか大宇陀はみんなで登下校されるからなかなか難しいところがあると思います。見守り隊はそもそもボランティアで、最後までずっと見て安全確保に努めるというのはなかなか難しいところがあって、地域住民全員がそういう意識を持ってもらうということが大事だと思います。まちづくり協議会にそういう事を言って、ご協力願えたらなと思います。</p>
<p>教育長</p>	<p>香芝で7月くらいに車に閉じ込められて連れ回されたという事件があって、あの時に防犯カメラという流れが出てきて、市でも取り組んで頂いたところです。学校内の監視カメラでは、玄関のインターフォンが鳴ったら、中で確認して頂いて、そこから入ってもらうということもありますが、田舎の方は、ここも通れるみたいな抜け穴がいっぱいあります。そこら辺は、とりあえず緊急の場所だけは置かせてもらって、順番にという形になっています。</p>
<p>市長</p>	<p>私も少しの間見守り隊に参加していましたので、本当に熱心にされているなと感じました。先程、巽委員もおっしゃられていましたけど、新しいメンバーがどれくらい入ってこられるかという、なかなか入られていないと思います。保護者も学期の最初は来られますが、その時だけなので、共働きの方が多かったら難しいのかなと思います。その辺はどうでしょうか。</p>
<p>教育委員 会事務局 長</p>	<p>見守り隊の方については子どもの名前も全て覚えていらっしゃるって、現在も榛原東小学校では見守り隊の方が参観とか様々な行事にも来て頂いて、子どもさんを学校の行事の中からも見守って頂いているような状況です。先程からのとおり、次の世代の方がいらっしゃらないということで、もっと入って頂けたらなということをおっしゃっておられました。見守り隊の方については頭の下がる思いですが、ただ、まちづくり協議会であったり、見守り隊であったりという部分も必要ですけれども、やはり家庭と学校、地域が、まずは家庭での子どもの教育という部分を、登下校のマナーとかを保護者と子どもが話し合っ頂くとということが最も大事ではないのかなと思います。</p> <p>余談にはなりますけど、最近メール配信で不審者のメールがございました。大事には至らなかったのですが、「お母さんが救急車で運ばれたので車に乗って行こうよ。」というような声掛け事象がありました。その時に子どもさんが、「うちのお母さんはすでに亡くなっています。」と答えたら、その方がどこかに行かれたというようなことがあります。良い事かどうかは別ですけれども、この子どもさんの保護者の方はご健在で、お父さんお母さんの名前を出されたら、「亡くなりましたのでうちには該当しません。」と言いなさいというように家庭で伝えていたと保護者の方がおっしゃられていました。そのような事を聞かせて頂きましたら、家庭内でしっかりと、こういった場合はこうしなさい、ああい</p>

市長  
教育長

った場合はこうなさいと言っていた事で1番大事じゃないのかなと感じたところ  
です。そういった事は、学校にも、学校から家庭にきっちりと周知してくださいと伝えて  
いるところです。

ありがとうございました。まとめて頂いてもよろしいですか。

私も宇陀でスクールバスの添乗をさせて頂いていたら、朝バスが行く時になってきたら  
地域の方がバスに手を振ってくださる、子ども達もそれに答えてバスの中から手を振って  
います。この光景というのは、地域の方が子どもらの安全を気遣って下さっているという  
大きな宇陀の地域の協力と言いますか、そういった安全安心の中で生まれているなど実感  
します。

それに加えて、見守り隊の方が高齢化されてきていて、世代交代を迫られている訳です  
けれども、学校では卒業式や入学式に招待してそのことを感化してもらってはいますけれ  
ど、今、局長からありましたように家庭でのしつけの中でこういった方法が誘いに対して  
の断りの大きなきっかけになったという部分を、学校あるいは地域の方、自治会に広げて  
いきたいなと思っているところです。

それから、通学路につきましては、管内放送であるとか、ゾーン30の設定であるとか、  
踏切の設定とか、横断歩道の新設とか、育友会と連携をさせて頂きながら更に進めていき  
たいと思っておりますのでよろしくお願い致します。

スクールバスの抜き打ちの添乗の件ですが、とりあえず毎月20日を繰り返していき  
ながら、その1回ができるようであるならば、計画の中に入れていけるように考えていけ  
たらなと思っております。

防犯カメラの設置につきましては、関係課と連絡を取らせて頂きながら、各学校の実情  
を聴かせて頂き、取り組んでいけたらなと思います。

市長

ありがとうございます。地域の方の子どもの見守りを広報でこの間取り上げて頂いたと  
いうことで、うだチャンもそういう呼びかけが必要なきは広報ツールとして使って頂い  
たらと思います。

そうしましたら、次の議題に移らせて頂きます。時代に対応する資質・能力の育成につ  
いて、国際化に対応するための教育（英語教育）とプログラミング教育の2つについて、  
教育総務課からご説明をお願いします。

教育総務  
課長

<時代に対応する資質・能力の育成について、1国際化に対応するための教育について（英  
語教育）、2プログラミング教育について、の2つについて説明>

#### 1 英語教育

- ・平成32年度から小学校における英語教育が本格的に実施
- ・宇陀市の対応

##### (1) ALT派遣

(2) オンラインスピーチトレーニング（モデル校2校で実施。スカイプによる外国人と  
のコミュニケーション活動）

(3) 英語村（英語漬けの1日を設定）

(4) 小中高英語及び外国語活動交流会（英語による発表会）

#### 2 プログラミング教育

- ・小学校で2020年度からプログラミングを使った授業が必修化
- ・今後はコンピュータと情報機器を活用して問題解決することが不可欠。プログラミング  
的思考を身につけ論理的な思考を養う
- ・宇陀市の対応 2019年度から先行実施

	<p>(1) プログラミング教育担当者研修会</p> <p>(2) 校内研修（体験型研修会）</p> <p>(3) モデル校における実践研究</p>
市長	<p>ありがとうございます。それでは、この件につきましてご意見のある方、よろしくお願 いします。</p>
岡本委員 教育総務 課長	<p>この英語教育は、平成29年度もやっていますか。</p> <p>やっています。</p>
岡本委員	<p>実際、子ども達はALTの先生方に色々話を聞いて、どの様な変化が起こっているの でしょうか。十分に理解をしながら英語の勉強をしているのでしょうか。</p>
教育総務 課長	<p>十分に理解できるかという、小学校に関して言いますと、今までの目的が英語という 言語を基にコミュニケーション力を高めていこうというような、今までは言語であったり 文字であったりというのを度外視して話せるようになるうとか、触れようというのが大き な目的だったので、外国の方に対する抵抗が低くなっていると思います。我々では、外国 の方から離れようかなとなりがちですが、外国の方を見られたら積極的に声をかけたりす る姿が見えるようになってきていると聞かせて頂いています。</p> <p>ただ、これが教科になってくると読み書きが出てきて、色々な要素が出てきますので、 そうなった時に今は楽しく英語に触れるという形でできている部分が、中学校1年生で習 うようなものが少し小学校においてきて、そのまま子ども達が楽しく英語を学べるかとい う点は今の所見えないところです。ただ、ずっと積み上げてきたものがありますので、慣 れてくれるのかなと思います。教科になってくると観点というのがでてきて、知識・技能 であったり思考・判断・表現であったり、それに組み込む関心欲・態度であったりとい うような大きな項目に分かれて子どもを見ていくことになるので、外国語活動としていたも のとは違った形になってくるので、市としてもそれに対応するような活動を考えていかな ければいけないのかなと考えるところです。</p>
教育長	<p>この前、峯畑委員が中国の子どもさんを受け入れておられて、すごく外国語がしっかり しているという話を聞かせて頂いたところです。室生中学校へ中国からの交流生が47、 8名で来ておられて、英語の授業を一緒に受けるということで、オールイングリッシュ でお互いを紹介し合うところから始まって最後まで授業されているのですが、やっ ぱり慣れてきているといえますか、それは上手に話す子も単語を並べている子もいま すが、今までだったら尻込みする子が多かったのですが、だんだん話すようになってい って、後でALTから聞いたら「室生中学の生徒さんもだんだん慣れてきました。」と言っ てくれて、そうやって慣れていくという事が一番大事な事なのかなと正直思っていま して、1・2年生の早い時期からALTを入れて、就学前と3・4年生と飛ばないように繋ぎの時 間を入れるようにして取り組んでいます。</p>
岡本委員	<p>今、なぜこんな事を聞いたかという、20歳ぐらいの子にスカイプの話をしました。 そうすると、「私達の時はなかったのに。そんなこと今宇陀ではやっているの、うらやま しい。」という声があったので、ALTやオンラインスピーチトレーニングの部分で、ど の様な子ども達の反応があるのかなと思いました。</p>
教育長	<p>中学校の先生が小学校で英語を教えるように、連続していけるように進めているところ もあります。</p>
岡本委員	<p>最終的に点数の授業まで繋げて頂けたら、子ども達も伸びると思います。</p>

市長	私も、中国の方がこの間来られた時に一緒に同席して授業を拝見しました。中国人の方は英語、中国語を話されていましたが、あれは何年生ですか。
教育長	3年生です。
市長	3年生ですか。私は給食とかと一緒に食べましたが、やはり日本人って言うていいのかわかりませんが、こちらの子供達はシャイだなと感じました。中国の方は都会の方が多かったですから、自分の考えを話すという訓練がなされていると感じました。外国語の知識とか、慣れっていうのも大事ですけど、私は自分の考えをしっかりと話すという事も教えていく、そういう事が大事ではないかなと思います。そうすると、日本語であれ外国語であれ、コミュニケーション力が上がっていくという事で、相手の話も聞くことに繋がると思います。
	それと、20歳ぐらいの方とお話がありましたが、要するに学校の先生がそういう経験があまりないわけで、例えば、英語について言うと、実施のために必要な条件整備というのにプログラミングと書いてありますが、先程おっしゃったように、読み書き、コミュニケーション、どこを重点的にやっていくのか、その方針、戦略というのか、教材はどうしていくのか、体制はどうしていくのか、それはどこで考えて頂いているのかお伺いしたいです。
教育総務課長	それらをどう進めていくかというのは、国の機関でワーキンググループを作って評価も含めて話し合われているところです。この2年間に関しては既にこうしていきましようという方向性が国からきていて、それを基に宇陀市としては、実際に外国人であったり、言葉に触れるということが大事だろうということで、今年からオンラインスピーチトレーニングを始めているというのが現状でございます。
	今後、教科になったときに、今の中学校1年生がやっている部分が少し小学校においてくるので、その内容、教科書等もはっきりしていない中で何を重点的にというのは、とりあえず英語に慣れて、積極的に触れられるように活動を進めさせて頂いているところでございます。2年後、本格実施に向けてもう少しすれば国の方針等も出てくるであろうと思いますので、その辺で今度は外国語活動ではなくて、読むであったり、書くであったり、それからコミュニケーション等も、引き続き色々な要素が入ってきますので、その辺り全て網羅できるようにカリキュラムの方を考えていけたらと思っております。
市長	ある程度学校にそういうやり方はお任せすることになるのでしょうか。それとも教育委員会で指示されるのですか。
教育総務課	大きな流れは、国から奈良県にきて、奈良県の方針が出てくるので、それを受けて各学校にこういう形で進めて下さいという周知をさせて頂いて、細かい学校ごとの特徴というのはそれぞれ各校にお任せするという事になると思います。その中でも英語教育を特に中心に進めていこうという学校があったら、それにまだプラスαでてくるかもしれませんし、それよりももっと国語教育を大事にしないといけないなという学校であれば最低限決められたことをしていこうとなるかもしれません。比重に関しては学校にお任せということになるかと思えます。
教育長	奈良県の教育委員会で英語システムの研修会という企画をされていて、そこに小学校、中学校の英語担当の先生方で小学校の英語研究会を作っておられて、中学校で英語教育研究会を作っておられて、小中合同で発表会とかもやって下さっているのですが、その方々が教育研究所、奈良県の企画の研修会に参加して頂いたら、その後研修会で学んだ事を各校にひろげて頂いています。市はプラスαとして奈良県の研修以外にオンラインスピーチトレーニングですとか、ALTの派遣の中で集まって頂いて、こんなやり方があった



	と研修して頂いております。
市長	研修を先生方でして頂いているのは大事だと思います。いずれにしても、全く新しい取り組みになりますので、やはり地域がサポートしていかないと先生だけでいけるのかなと思います。英語がペラペラの住民の方もいらっしゃるし、プログラミングを教えられる方もいらっしゃるの、そういう方にどんどんサポートをして頂きながら、積極的にできる部分があるのであれば、ぜひ宇陀市としてこういう事をやっていこうと企画して頂けたらありがたいと思います。必要なソフトなりハードなり、パソコン、タブレットがいるのであれば、しっかりと予算を考えていきたいと思います。
岡本委員	プログラミング教育で、先生方により一層の負担がかかるよりも、それこそ長けた人がいるのであれば、講師という形で来て頂けたらどうかなあと考えていました。
吉川委員	教員の研修に来てもらって、先生に対する研修の講師をやってもらった方が良い様な気がします。先程聴けなかったのですが、オンラインスピーチトレーニングを6月から始めているということで、子どもさんの反応はどうか。
教育総務課長	指導主事から受けている報告では、子ども達は物怖じせずに話しているということです。嫌がって話さないとかではなく、ALTも今の子ども達はすごいですねと言っています。
吉川委員	1回できたら自信がつくでしょうから、それを活かしていかなければならない。
教育総務課長	子ども達はモデル校2校ですが、先生方は全部の学校でできるように進めていますので、先生方の反応も見てみたいと思っています。
吉川委員	ALTに任せっきりでなくて、プログラミングも関連してきますので、先生方の英語力の能力の向上もして頂きたいと思います。
教育総務課長	中学校の先生や、高校の先生とも関連しながら進めていく事でより生きた教育になるのではないかなと感じています。
巽委員	プログラミング教育を将来的に全校に進めていくに当たって、コンピュータは普通のもので良いのですか。
教育総務課主幹	コンピュータの整備を進めております。小学校については5校が普通のコンピュータで、菟田野小学校だけがタブレット型に切り替わっています、今年度については、榛原西小学校と大宇陀小学校をタブレット型に変えていきます。タブレット型の方が持ち歩いたりして、自由な学習ができますので、年次的にタブレット型への切替えを進めています。
巽委員	必要なアプリを入れていかなければならないのですか。
教育長	そうです。先生方は平行して入れています。
岡本委員	タブレットでプログラミングができるのですか。
教育総務課主幹	黒い画面にコマンドを入れるようなものではなくて、ブロックの様なものがあって、それを利用していくのがプログラムの基本になっています。
岡本委員	動かすコマンドが入っているわけですね。
教育長	そうです。最初から作ってというものではありません。
市長	もう少しすれば、ロボットの教材が出てくるのでしょうか。
巽委員	年間計画で時間の確保が必要かと思いますが、教科ですか。情報ですか。
教育総務課長	これに関してはどこで何時間ということは全く決められていません。教科の一部、理科で使ってみようとか、図形で使ってみようとか、他にも総合的な学習の時間がありますので、その一部を使っていくのだらうと思っています。
峯畑委員	英語教育ですが、タブレットや、スカイプ等を使う楽しみもあって英語には慣れてきて

	<p>いると思いますが、使える英語になっているのかと思います。英語を話さなければならぬ必要性を感じるきっかけを与えることが難しいと思います。必要性を与えたいと思っています。きっかけの1つとしては、室生の交流のように、外国の子ども達を宇陀市に招待して交流する、学校だけではなくて地域のホームステイなどの様に、子ども達が相手に自分の気持ちを伝えたいという意欲をうまく醸成できないものかなと思っています。</p> <p>高校の再編ということで、総合学科が新設されると聞いていますが、その中に卒業生や一般の方も対象に介護福祉士の受検資格を取得できる課があると聞いています。そうすると、フィリピンやインドネシアの方が来られるのではないかと考えています。その人達が周りにいると、子ども達は必然的にコミュニケーションを取らなければならないと思いますので、これはチャンスかなと思っています。</p> <p>また、可能であれば1週間でも子ども達を海外に行かせる機会を持たせてあげたいなと思います。</p>
市長	<p>すばらしいご意見だと思います。英語も使わないと上手にならないと思いますし、話したいという環境作りが大事です。高校の件も伺っていますので、それらをうまく宇陀市に繋げていきたいと思っています。</p>
教育長	<p>県教委も、上級クラスとして、他の学校を卒業されてからでも学習できる専攻科を創られて、また、受け入れ先が広がって、外国の方も学習できるというものを検討されているようです。その際には受け皿としての地域の協力、支援を得ていかなければならないと思っています。</p>
市長	<p>今でもホームステイされていますし、どんどん国際交流の機会が増えていけば良いと思います。また、私からの希望ですが、モデル校の英語なり、プログラミングなりの取組みについて、うだチャンで特集して頂き、PRを考えて頂けたらと思います</p>
教育長	<p>2032年のICTの技術育成を国も看板にしていますし、2020年から小学校にプログラミングが導入されて、その子ども達が高校を卒業する頃が2032年となっていて、大学のセンター試験が変わって、英語を話したり、答えたりする試験が入ってきて、宇陀市が行っている英語教育、プログラミング教育という路線は間違い無いと思っています。</p>
市長	<p>それでは3つ目の議題について事務局から説明をお願いします。</p>
教育総務課長	<p>&lt;学校等の適正配置と就学前・小・中・高の連携について説明&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・就学前施設（榛原地域）の適正配置 榛原西幼稚園の児童数が大幅に落ち込む。 計画では2020年榛原西幼稚園と榛原幼稚園の統合。その他は今後の課題</li> <li>・小学校・中学校の適正配置 当分は複式学級になる心配はない。 幼稚園の統合を受けて、榛原小学校と榛原西小学校の統合の必要性 宇陀市に必要な学校の数を検討していく必要があるため、（仮称）学校等適正化検討委員会を設置する予定</li> <li>・就学前・小学校・中学校と高等学校との連携 大宇陀高等学校と榛生昇陽高等学校が統合し、（仮称）県立宇陀高等学校になる。情報課を奈良県内の拠点にして、小学校と中学校から繋げたい。 宇陀高等学校も交えて、就学前・小学校・中学校の連携を図っていく。</li> </ul>
市長	<p>それでは、この件につきましてご意見を宜しくお願いします。</p>

異委員	<p>榛原西幼稚園については、通園されている方も地域の方も統合は避けられないかなと思っておられて、市の方向性で問題ないと個人的には思っているところですが、小学校はどうなるのという事については、教頭先生は、小学校の保護者は反応ありませんと言っておられました。小学校の保護者からは煙も出ていない、風も吹いていない感じで、仮に榛原小学校も榛原西小学校も人数が減っており、統合したら人数的には複数学級を形成できる、一緒になっても問題ないかなと学校訪問では感じました。ただ、保護者からの反応がないのであれば、幼稚園と一緒に考えましょうというのは急には難しいと思います。</p>
教育委員会事務局長	<p>異委員がおっしゃられた様に、幼稚園の保護者については、ほぼ反対の意見はありませんでした。むしろ、いつ頃統合しますかというご意見でした。小学校につきましては、小学校の保護者からの直接のご意見は頂いていません。ただ、統合に関わる議員の方々、自治会長、まちづくり協議会役員の方からも、小学校はどうなるのだろうか、1つの小学校では寂しくなるという意見は頂いていますが、統合に関する直接的な意見は頂いておりません。中学校も学校によっては部活ができない状況にあります。人数がいても部活に入る子どもが減少していることも聞いておりますので、全体的な将来を見据えて、今年度には、学校等の適正化検討委員会の設置のための条例を整備していきたいと考えております。</p>
岡本委員	<p>私も学校等の適正化検討委員会が必要だと感じます。地域の方々に市としてはこういう方向性で考えているという理解を得ながら、子ども達にとって適正な学校配置というものを示せるように、野球やバレー、サッカー、吹奏楽をしたくても人数が足らずにできない、子ども達が将来に向けて自分でやっていきたいことに夢を持ちながら過ごしている中で、いざ蓋を開けたらできないとならないように、子ども達の意見も聴きながら、大人数の中で自分の意見が認められるという子どもの育成というのが大事だと思いますので、学校等の適正化検討委員会を立ち上げて頂けたらと思います。</p>
吉川委員	<p>確かにやむを得ない事は十分分かりますが、今の数値を捕まえて適正配置の検討も大事だとは思いますが、人口を増やす努力、政策も検討課題に入れて頂いた方が良いと思います。宇陀市に魅力があれば、人が来る、人口が増える、相乗効果がある政策をご検討頂けたらと思います。</p> <p>また、室生で、一旦統合して、再統合するという事がありましたので、榛原西幼稚園と榛原幼稚園が統合して、また統合するということがないように、議題として挙げて頂きたいと思います。中学校でも何かにつけて障害が起こってくるというのは、解消してあげないと、将来の子ども達の為にも良くないとは思いますが、統合は言葉で言うのは簡単ですが、統合に関わる住民感情もありますので、住民感情を逆撫でしないように進めていってもらいたいと思います。</p>
市長	<p>人口を増やす事をなんとかしたいと思っております。今ご意見頂いている内容を捉えて、市としての対応をしていこうと思います。</p>
峯畑委員	<p>中学校で部活動が成り立たなくなっているの、意図的に、例えば大宇陀中学校と菟田野中学校の部活を1つに集めていく事をしていかなければならないと思います。そのための支えといいますか、スクールバスとかを用意していけば、年々壁が無くなっていくような気がします。諸行事を統合してみるとか、体操服を良く似たものにしておくとか、少しずつ統合できないかなと、吉川委員さんがおっしゃられていたように、統合というのは住民からの反発があるとなかなかしんどいと思います。</p>
教育長	<p>就学区というものがありますが、現在も区域変更の理由として、部活動がなかったら部活動のあるところに区域変更をする事は市としては問題ないとしています。</p>

異委員	<p>中学校に行かせて頂いたときに、年々活気がなくなっているとひしひし感じました。先生方も本当に工夫されていると思います。中学校は深刻だと思います。小学校については、小学校1年生の子が40分も1時間もスクールバスに乗るというのはあり得ないので、複式学級にならないのであれば、それぞれの地域に最大限ぎりぎりまで残してあげたいと思いますが、中学校は子どもの数で学ぶ意欲や、やる気もそがれていく様に思いますし、将来的に1つになっても良いかなと思っています。</p>
岡本委員	<p>1年生1クラス、2年生も1クラス、3年生も1クラスというのは、3年間同じ仲間というのも良い点もあるかもしれませんが、色々なクラス変えがあって、色々な友達と知り合って、大学に行って、社会に出るということは、人間の成長に必要なだと思います。</p> <p>また、野球部ですが、大宇陀中学校と室生中学校と御杖の中学校の3チームが合同で県の大会に出ているそうです。この合同チームでも本戦に出ているので、1つの中学校でしたらもっと力を発揮できると思います。もっともっと伸ばしてあげたいなと思います。</p>
峯畑委員	<p>どの競技にしても、学校のクラブ活動以外では校区を離れて集まっていると思いますので、中学校が1つになるのはあまり抵抗がないかもしれません。</p>
吉川委員	<p>榛原以外の地域は幼稚園から中学校までずっと一緒に、社会に出たときになかなか馴染めないと思います。そういう事を考えると中学校は1つにしても問題ないのかなと思います。ただ、小学校だけは残しておかないと、各地域に小学校もない、中学校もない、何もなければ、街が廃れていく一方です。中学校は大きなところで、クラスも変えて、色々な人と付き合っ社会に順応できるような人間性を形成していくべきだと思います。</p>
異委員	<p>中学校は1つが当たり前だと思ったら、抵抗はなくなると思います。</p>
市長	<p>市民の皆様の合意形成は難しいと思います。横の連携もありますが、縦もありますので、そういった事を研究して頂きたいと思います。</p>
教育長	<p>五條市とか、御所市とかも、小学校はなんとか持つと、将来的にはまとめていかなければいけない時期かなと思っています。また、教育委員会としても学校等の適正化検討委員会の検討に入っていきたいと思います。具体的な中身については、住民の意識調査、アンケート、地域の懇談会とかを経て、早急に答えを出すのではなくて、時間をかけて最終的な結論を出していきたいと思います。</p>
市長	<p>子ども達が大事ですので、子ども達のためを思って検討をお願いします。そうしましたら、協議事項につきましては、これでよろしいですか。</p>
岡本委員	<p>もう1点お願いですが、教育環境の整備ということで、クーラーの設置を検討して頂けないかなと思います。</p>
教育委員会事務局長	<p>7月末の新聞等に掲載されておりましたが、奈良県の小中学校のクーラー設置率が非常に低いということで、滋賀県が75・76パーセント、奈良県が11・12パーセントということで、奈良県知事が奈良県独自の補助金を創生して、小中学校のクーラーの設置の増進を図るという報道が出ましたので、市民又は議員の方々から今後の予定等についてお問い合わせ、ご意見を頂いています。現場は現在計測をしています、学校からも今後の予定について問い合わせを頂いています。</p>
市長	<p>かなり多額になる話です、この場ですぐに分かりましたと申し上げにくいところですが、夏休みに当たるという点も踏まえて、検討事項として承ります。</p> <p>そうしましたら、報告事項に移らせて頂きます。</p>
教育総務課長	<p>&lt;図書館の有効活用について、給食センターの建替えについて報告&gt;</p> <p>・8月から10月までの3月間、図書館を8時まで開館時間を延ばして運用</p>

	<ul style="list-style-type: none"> <li>給食センターの建替えは、資料を作成中</li> </ul>
教育長	昨日、局長と図書館を見に行きましたら25名いらっしゃいました。
教育委員	一般の成人の方が1人、後は子育て世代の方でした。新たに登録された方が6人から7
会事務局	人いらっしゃいました。お話を伺うと、お勤めをお昼にされていて、子どもと一緒に来た
長	とおっしゃられていました。
市長	小さい子どもさんを子育てされている保護者からご要望がありましたので、試験的に導入して頂いたところですが、またニーズが多ければ継続も検討してください。その他次回の開催については、いかがですか。
総務課長	次回の開催につきましては、調整の上、追ってご連絡申し上げます。
市長	長時間ありがとうございました。ご要望等のありました内容を踏まえてしっかりと考えていきたいと思っておりますので、今後とも教育行政に関しましてご協力頂きますようお願い申し上げます。